

## ヒラノ教授の線形計画法物語

岩波書店 190頁 2014年 定価1,600円+税

ヒラノ教授ファン待望の新刊がついに登場した。その名も「ヒラノ教授の線形計画法物語」。著者はもちろん、数理計画法と金融工学の両分野で華々しい研究業績を残し、本学会の会長を務めたこともある今野浩氏である（以降、尊敬の念を込めて今野先生と呼ぶ）。何を隠そう自分はまだまだ未熟ながらも、今野先生を目指して日々研究活動に勤しんでいる研究者の一人である。

本書は、線形計画法の大御所であるジョージ・ダンツィク博士の下で博士号を取得し、その後も親交が深かった今野先生の実体験に基づく物語であり、線形計画法の発展にまつわる人物エピソードやその数学アイデアの勘所が見事に紹介されている。

本書の目次は以下のとおりである：

- 1 初めての線形計画法
- 2 ダンツィクの単体法
- 3 バイブル
- 4 線形計画法の父
- 5 ブラックホール
- 6 ノーベル経済学賞
- 7 ディキン＝カーマーカー法
- 8 内点法革命
- 9 カーマーカー特許裁判
- 10 50年目の線形計画法
- 11 素敵な発掘道具
- 12 魔法使い
- 13 巨星墜つ
- 14 最適化の時代

ヒラノ青年（若き日の今野先生）は、東京大学理科学科の学科説明会で「線形計画法」と初めて出会う。この学科説明会では、各学科を代表する教授たちが自分の学科について学生に説明し、学生たちはここで得た情報を手掛かりに所属する学科を選ぶ。応用物理学・数理工学コースの代表であり、後のヒラノ青年の

指導教官となる森口繁一教授は、この学科説明会でヒラノ青年のハートを驚づかみにした。原文を引用すれば、「線形計画法問題は、ヒラノ青年が1年余りの大学生活で知った、最も分かりやすく最も面白い問題だった」のだ。

ここからヒラノ青年は、応用物理学・数理工学コースへと進む。そして修了後、電力中央研究所の海外大学派遣制度を利用してスタンフォード大学に留学し、ダンツィク教授の下で研究をスタートさせることになる。これは今野先生曰く「二重、三重の幸運に恵まれたおかげ」とのことだが、詳しくは本書を手にとってもらいたい。そして、ここからヒラノ青年はダンツィク教授から線形計画法を学び、その発展を身近なこととして目撃し体験していくことになるのである。

ヒラノ教授シリーズに共通することだが、今野先生の軽妙な語り口にはクスッと笑いながら、どんどん先へ先へと読み進めていってしまう。ここに書かれている線形計画法の数学と研究史は、ORに携わる者であれば知っておいて損はないし、むしろ知っておくべきことなのではないだろうか。また、大学でOR系の講義を担当する教員であれば、本書に書かれているようなエピソードを講義の中で紹介すれば、学生の興味を引くことができると思う。また、もっと手っ取り早く学生に本書を直接読ませてしまえば、若き日の今野先生と同様に、きっと線形計画法の虜となってくれるだろう。

最後に完全な余談となるが、自分の指導教員の後藤順哉先生の指導教員は今野先生である。本書を読んで気づいたのだが、実は自分は「数理計画法の父（ダンツィク教授）のひ孫弟子」ということになる。自分が担当する数理計画法の講義で、この事実を学生たちに話して尊敬の眼差しを浴びるのが、少し快感だったりする今日この頃なのである。

（高野祐一）